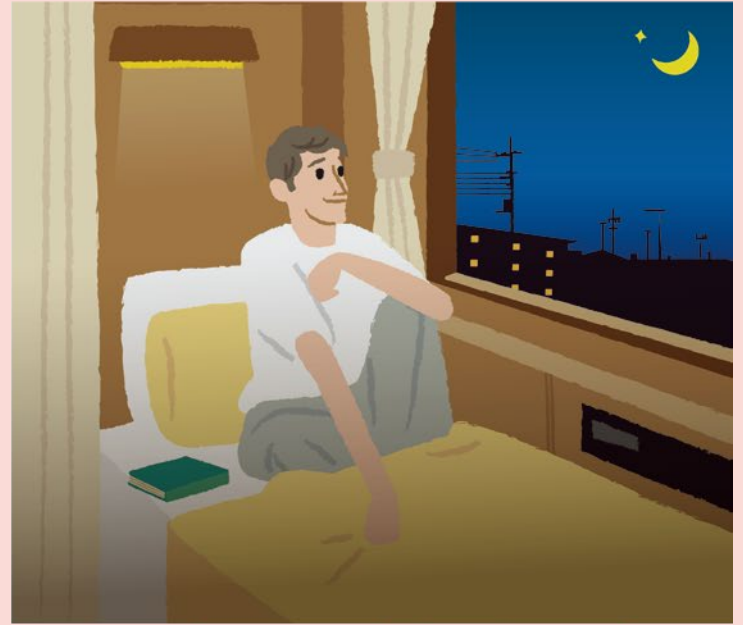


KINKON

2022秋冬
vol.18

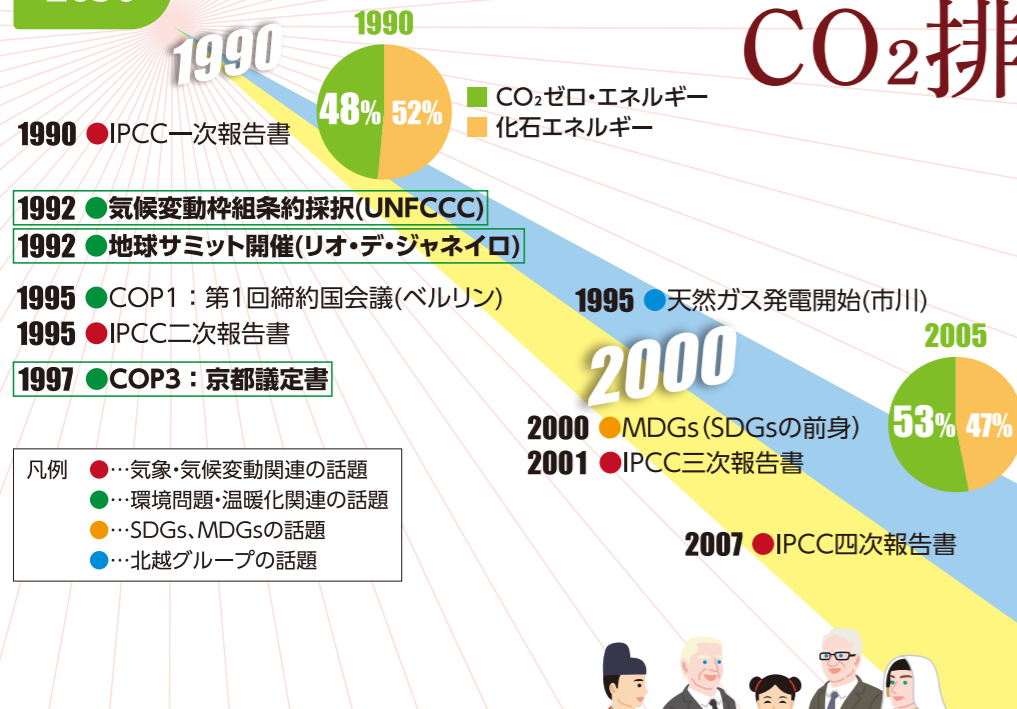
ZERO
CO₂
2050™



北越コーポレーション

KINKONは、当社工場の地名の頭文字を組み合わせ、お客様を訪問する際のチャイム音「キンコン♪」をイメージした、当社の環境活動通信誌です。

サステイナブルな社会を目指し CO₂排出実質ゼロに挑戦



パリ協定とCOP27

	COP21 (パリ) パリ協定	COP27 (エジプト) シャルム・エル・シェイク 実施計画
開催期間	2015年11月30日 ~12月13日	2022年11月6日 ~11月20日
全体目標	産業革命以降の気温上昇を2℃未満に抑え、1.5℃以内に抑える努力を追求する。 今世紀後半には温室効果ガスの排出と吸収のバランスを目指す。	今世紀後半までに世界の気温上昇を産業革命以前と比べて1.5℃に抑えるさらなる努力を追求する。 COP26で1.5℃目標が設定され、COP27で再確認された。
対象国	196か国・地域	197か国・地域
途上国支援	先進国は、資金を提供する義務を負う。	気候変動により被害を受ける途上国を支援するため、「損失と損害」に対する支援基金を創設。

COP27は、ロシアのウクライナ侵攻によって世界的なインフレ、エネルギー、食料、サプライチェーンの危機を引き起こし、国際社会の分断が深まる情勢の中開催されましたが、気候変動という地球規模の課題に対して、各国が協調していく姿勢を示しました。特に途上国が長年求めてきた気候変動による「損失と損害」の支援基金創設は、先進国が歩み寄った画期的な合意です。

一方、排出削減や化石燃料の使用削減対策の進展は見られず今後の課題となりました。

私たちは「ZERO CO₂ 2050」を推進し、2050年までにCO₂排出実質ゼロに挑戦しています。2022年現在までのCO₂削減に関連する世界の枠組みと当社の取り組みについてご紹介いたします。

IPCC報告書の変化 気候変動と人間の活動

1988年に設立された政府間組織であるIPCCは、1990年から気候変動に関する報告書を出しています。

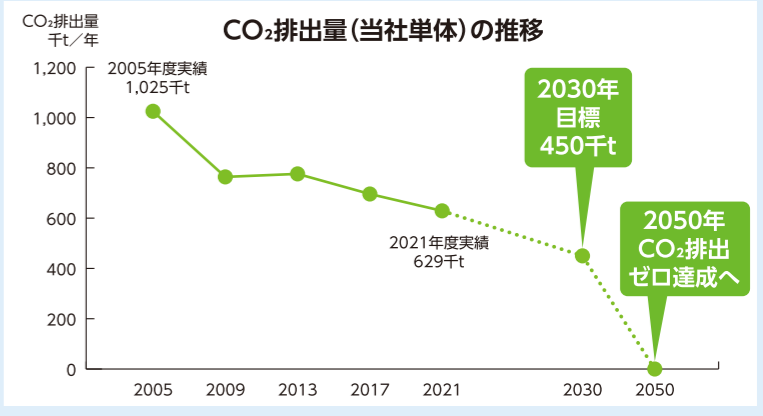
1990年の一次報告では人間の活動と気候変化の関係は「生じさせる恐れがある」との表現でしたが、最近発表された六次報告書では「人間の影響が大气・海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない」との表現となり、気候変動は人間の影響であると断定しました。気候変動が人間の影響であるならば、解決するためには人間が行動を起こす必要があります。

当社は、1995年から環境負荷軽減のエネルギー対策を実施しています。今後もCO₂排出量の削減に取り組み気候変動抑止に貢献していきます。

気候変動と人為的活動の関係についての表現		
1990	一次報告	気候変化を生じさせる恐れがある
1995	二次報告	影響が気候に現れている
2001	三次報告	可能性が高い
2007	四次報告	可能性が非常に高い
2013	五次報告	可能性が極めて高い
2021	六次報告	疑う余地がない

北越コーポレーションのCO₂排出量の推移

2021年度のCO₂排出量は629千tとなりました。2013年度比18.9%の削減(2005年度比38.6%削減)となりました。地球温暖化対策に関する国際的な取組み「パリ協定」に沿って今後もより一層のCO₂削減対策を進め、2050年のCO₂排出実質ゼロへの挑戦を続けます。



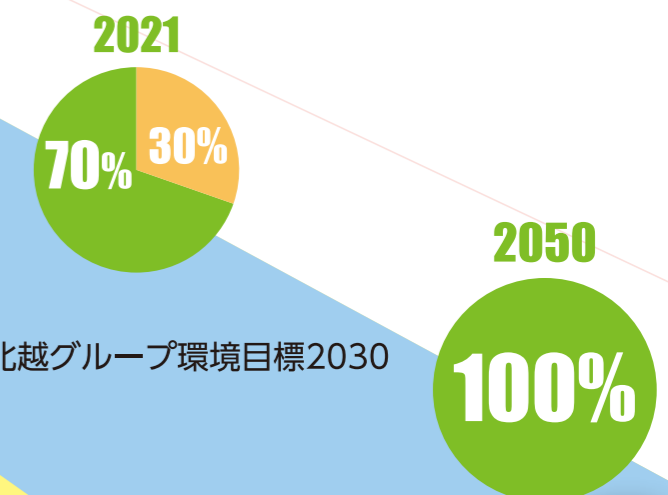
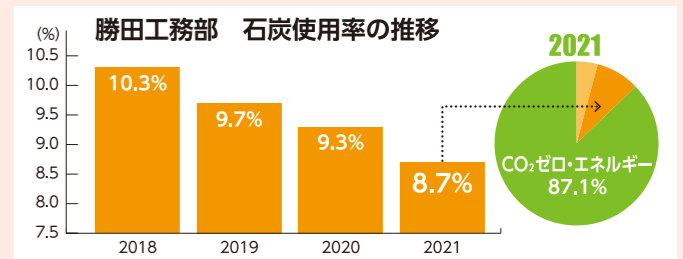
CO₂排出量削減の取り組み 関東工場勝田工務部 石炭削減

関東工場勝田工務部は、大型バイオマス発電設備を備えCO₂ゼロ・エネルギーの比率が80%を超える工場ですが、さらなるCO₂排出量の削減を目指す為、石炭使用量の削減に取り組んでいます。

従来石炭は、バイオマス発電設備の安定操業の為に全体の20%程度使用していましたが、作業方法や各燃料比率に工夫を重ね2018年には10.3%、2021年には8.7%まで削減しました。

勝田工務部の2021年のCO₂ゼロ・エネルギー比率は87%まで高まり、100%のゴールが見えてきました。

これからもCO₂排出量削減対策を推進し、サステイナブルな社会構築へ貢献していきます。



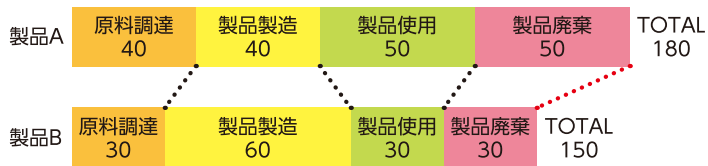
ZERO CO₂ 2050

ライフサイクルアセスメント(LCA)

ライフサイクルアセスメント(LCA:Life Cycle Assessment)とは、製品やサービスに必要な原材料の調達から、製品の製造、使用、廃棄に至るまでのすべての工程での環境負荷を定量的評価する手法です。例えば以下のような同じ機能と品質を持つ製品Aと製品Bがあったとします。製造段階だけを見ると製品AのCO₂排出量が少ないのですがLCA全体で見ると製品BのCO₂排出量が少ない結果となっています。このようにして、LCAは、製品やサービスのライフサイクル全体での環境負荷を明らかにして、環境に配慮した製品・サービスを包括的に把握する手法として注目されています。

また、各工程での環境負荷を把握することで、環境負荷低減対策をどの工程で行えばよいか計画の立案にも役立てることができます。環境負荷を評価する方法としてLCAの他にScope1、2、3があります。LCAの評価対象は、一つ一つの製品ですが、Scope1、2、3の評価対象は、組織(事業活動)を対象として評価を行う方法です。混同しないようにしましょう。

CO₂排出量

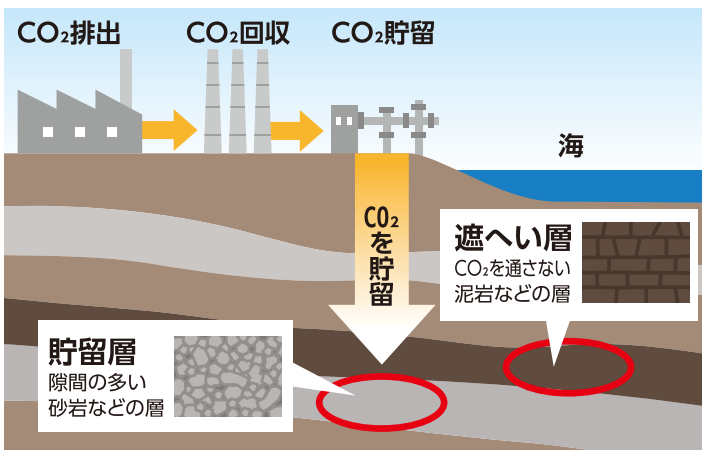


マメ知識 LCAが生まれたのは、1969年にコカ・コーラ社が米国の研究所に委託して実施した、再利用できる瓶と使い捨ての飲料容器の製造が環境へ与える影響を比較・評価した研究がきっかけだとされています。

参考 <https://tenbou.nies.go.jp/science/description/detail.php?id=57>

未来の脱炭素技術CCSとは

工場などから排出された二酸化炭素(CO₂)を分離・回収(Capture)し、地中深くに貯留(Storage)する技術がCCSです。また、CO₂と水素からメタンを合成するメタネーション技術などを用いて、回収したCO₂を利用(Utilization)する技術がCCUです。どちらも将来の社会実装に向け調査・研究が進められています。



憩いと繋がりの場がオープン

本社3階に従業員やお客様が自由に使えるリフレッシュスペースが2022年7月にオープンしました。仕事の気分転換に利用するだけでなく、ちょっとした商談や防音ブースでのオンライン会議参加等、様々な使い方ができます。また、フロアを超えた交流で新たな繋がりが発想が生まれるかもしれません。



バルカナイズドファイバーが2021年度セルロース学会技術賞を受賞

2022年7月、2021年度セルロース学会各賞授賞式が行われ、北越グループ(当社及び北越東洋ファイバー)が「バルカナイズドファイバーの微細構造制御と炭素繊維複合化への展開」という題目で、2021年度セルロース学会技術賞を受賞しました。

当社グループは、バルカナイズドファイバーの研究を進め、ナノとマイクロのセルロースが融合したオールセルロース材料として再評価し、海外の学術誌を含め論文発表をしてきました。さらに、炭素繊維との複合材料といった新たな製品へと展開し、学術的にも産業的にもセルロースの発展に貢献した点が評価され今回の受賞に至りました。

バルカナイズドファイバーは植物由来原料だけで作られているため、生分解性もあります。そのため、海洋汚染で問題となっているプラスチックに代わる材料として期待されており、様々な分野で新たな採用が進んでいます。



左から2人目: 北越東洋ファイバー 小林氏、
同3人目: 北越コーポレーション 田中氏

編集後記

今号では、気候変動に関する世界のルールと当社のこれまでの歩みを中心に紹介しました。気候変動を最小限に抑えるという目標に対し、現下は世界中で様々な逆風が吹いています。しかし、私たちは未来を考え、それらを乗り越え、行動していかなければなりません。その意味を込めて、表紙のデザインでは、それぞれが未来へ向け進んでいく姿を表現しています。

本誌では、今後も当社の環境関連の取り組みについて、引き続き分かりやすく情報発信していきたいと思っております。

この通信誌の用紙にはミューマット-F 157g/m²を使用しております。

KINKON vol.18

2022年12月発行

[発行]

北越コーポレーション株式会社

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-2-2

TEL(代):03-3245-4500 FAX:03-3245-4511

<http://www.hokuetsucorp.com/>

ZERO
CO₂
2050™

